

じゃっと新聞

No.67号

総会案内 スタディツアー報告

発行日：2016. 1. 25

発行人：帖佐 徹

発行所：じゃっと事務局

〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町
11-20 若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

Email info@jaddo.or.jp

[Http://www.jaddo.or.jp/](http://www.jaddo.or.jp/)

メール、ホームページアドレス変わりました

フアナ村小学校で文化交流する
ツアー参加者の学生



理事長 帖佐 徹

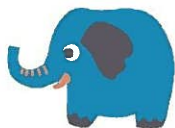
皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。昨年末には恒例のじゃっとツアーを挙行之、2度目となる、カムワン県セバンファイ郡の小学校訪問がありました。詳細は小幡理事の報告書でお読みください。その際、「じゃっと」の今後の活動についてどうするか、DrKongsap と DrSomchit より色々の提言がありました。その内容は年初の理事会でも報告いたしましたが、以下のようなものです。

(1)ラオスにおける活動の正式化：ラオスでの「じゃっと」活動は長年続いています、近年ラオスでの外国 NGO の登録手続きが変わり、事業内容、事務所、スタッフを明記した上で、ラオス側のカウンターパートと正式な合意書 Minute of Understanding(MOU)を締結せねばなりません。かなり煩雑な手続きとなるため、カムワン県での活動は、聖マリア病院管轄の NGO である ISAPH が同県で実施中の小児栄養プログラムに協力する形で行っています。DrKongsap としては、「じゃっと」をラオスでも早く正式化して、活動しやすい環境を創出したいとのことでした。(2)ラオスの健康長寿活動の立ち上げ：DrKongsap も本年 3 月で国立公衆衛生研究所を定年退職です。今後は、ラオス社会の高齢化を考え、ビエンチャン市の老人会やマホソト病院と協力して、高齢者の健康のため活動したいとのことです。ただ「じゃっと」は学校保健を定款に謳ってあります。どのような形で関わっていけるのか、議論が必要です。

新しい年を迎え、上記のように課題も出て参りましたが、「じゃっと」メンバーの熱い心をラオスに伝えるため、いろいろ検討していかなければならないと考えております。活動を長く続けてきましたが、更なる継続のためには、我々も変革が必要なのかもしれません。本年も皆様のご協力をお願いいたします。

2015じゃっどスタディツアー報告

理事 小幡順子



12月24日（木）

福岡空港集合。

10：30 福岡発ベトナム・ホーチミン、プノンペン
経由ラオス行きベトナム航空利用

19：30 ビエンチャン着

21：00 コプチャイドゥにて夕食

パパイヤサラダを注文する際、「リトルスパイシー
or マイルドスパイシー？」と尋ねられ「リトル」と
答えて出されたものは、「どこがリトルだ〜〜〜
〜！」という辛さ。いきなりラオスにパンチいただき
ました。

12月25日（金）

08：40 ホテル発

09：10 ビエンチャン市内サムケ小学校着

09：25 セレモニー（贈与式）学校施設視察。今回
パソコン1台、書類棚6台を贈与。児童の成績管理
や業務報告などでパソコンを使用したいと熱望さ
れ供与。ラオスの学校でもパソコンを活用する時代
になっているようです。



小学校の近所で機を織っている人がいるとのこと
で案内してもらいました。小さな商店の奥に機を置
き、スカートの裾模様を織っていました。聞け
ば、1枚5日ほどで織り、100ドルほどで売れると
いうことです。

学校からの帰り道、村長宅にて行われていたポリ
オワクチン接種会を見学。帖佐徹理事長は、ポリオ
撲滅活動のためラオスに滞在していたこともあり
感慨深げに見学していました。

昼食後、ビエンチャン郊外にあるブッダパークや
国際見本市などが開催されるアイテックなどを視

察。夕食後、ナイトマーケット見学。

12月26日（土）

09：00 通訳の虫明氏と合流。

09：40 ホテル出発 車で一時間半の塩田見学。



ラオスの土壌は地下に塩層があり、井戸を掘っても
塩水が出てくることがあります。そうした塩層の塩
水を汲み上げ、天日による濃縮、釜焚きして出来上
がるラオスの塩は 500g=5000kip=約 70 円です。釜
焚きしていた女性に尋ねたところ、給料は出来高払
いで調子がよければ月 400 ドルほど。公務員の平均
給与が 200 ドル（他各種手当付き）といえますから、
結構いい収入のようです。しかし、体にはきつい仕
事なので、皆がやりたがらない仕事とのことです。

昼食後、市内観光。学生たちは、人生初めてのマ
ッサージに挑戦しました。

12月27日（日）

09：00 Dr.コンサップ、Dr.ソムチット、教育省
OB アジャンと合流して、カムアン県タケクへ向け
て出発。

途中、トイレ休憩に入ったガソリンスタンドには身
障者用トイレが設置してありました。今回の旅で 3
か所の身障者トイレを見ることができました。すべ
て自動ドアではなかったですが、中は広く日本のデ
パートなどにあるトイレと遜色ないものでした。コ
ンビニのような店も併設されており、コーヒーブ
レイクもできます。

15：40 ホテル着

17：00 メコンの夕日見学



12月28日（月）

07：30 タケク市内から南の Houa Na（フアナ）村小学校に向けて出発。

08：40 学校着。贈与式。一昨年既存トイレの水道設備援助、今年度トイレ棟の贈与を行っています。私たちを全校児童で迎えてくれた様子や、贈与式での学校関係者や地元の人たちの様子に、ある学生が「こんなにじゃっどの活動は、地元の人たちから感謝されているのですね」と話していました。

贈与式後、机イスに記名作業。今回 30 セット供与村人が用意してくれた歓迎のバーシー後、昼食

15：00 車で3分ほどの隣地区に移動。

Tung（ツン）村小学校視察。九電生協からの寄付をもとにトイレ改修予定の支援校で、昨年度贈与式を行った学校です。

16：00 タケク市内から 20 kmほど東にあるブッダ洞窟見学。途中までは舗装した道だったのですが、横道へ入ってからは、お尻が 10 cm 浮くガタガタ道を進みました。こんな道の先に観光地があるのだろうかと思っていたら、目的地には一幅の絵のような美しい風景が広がっていました。洞窟のほうも狭い空間ながら、鍾乳洞の見本市のように色々な形の鍾乳石があり見ごたえのあるものでした。絵心のある人ならきっと1週間ほど通ってスケッチし続けるだろうというほど、美しい風景でした。

夕食はシンダートというラオス式焼肉鍋料理。この日 73 歳誕生日を迎えたアジャン氏のお祝いも行いました。

12月29日（火）

08：00 ホテル発

町中の食堂にてサンドイッチとパン・クアンの朝食。学生たちはローカル色いっぱいの朝食に目を白黒

させていました。

09：30 カムアン県病院見学。看護科で勉強中の大学生からの希望で日程に入った病院です。看護学生のユニフォームが2種類ありました。一般の看護師コースと、母子保健専門看護師コース：出産関連の死亡率が高いラオスの現状改善にと Dr.ソムチットの指導で政府が新設。ユニフォームはラオス全国共通であり、実はデザインしたのも Dr.ソムチットとのことです。



県病院は、現在別な場所に新病院を建設中です。会議室に呼ばれ、「今取り組んでいる病院マネジメントについて Dr.コンサップにご教示願いたい。」と病院長によるプレゼンが始まりました。今更ながらじゃっどラオス側の Dr.コンサップ、Dr.ソムチットのラオス国内での医療分野への影響力の大きさが覗えた病院視察でした。

11：00 病院見学後、タケク→ビエンチャン移動。

到着後、通訳虫明氏とお別れ。

12月30日（水）

ビエンチャン最後の早朝。学生たちは前日スーパーで托鉢用にお菓子を購入し、ホテルの近くで托鉢体験。托鉢にきているラオス人の女性に身振り手振りでやり方を習ったと、朝食時興奮して報告してくれました。

09：00 ホテル発

11：50 ビエンチャン→ホーチミンへ

15：05 ホーチミン市内観光。

12月31日（木）

00：35 ホーチミン発

07：20 福岡空港着 博多駅に移動、解散。

「じゃっど」のスタディツアーに参加して ～コープチャイライライ！～

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻 4 年 徳田眞子

私は、今回「認定 NPO 法人 じゃっど」の皆さんが、ラオスで小学校の児童や教師を対象に学校保健教育を行っているということを知り、自分が看護師として臨床の場で働く前に、海外での医療の現状を知ることで、保健医療や看護のあり方について考えたいという思いや、他国の文化に触れることで自分の視野を広げ、自国について、また自分自身についても見つめ直すことができればと思い、このスタディツアーへの参加を希望させていただきました。もともと途上国のような海外の医療に興味があり、また、小さい頃から看護師になることを夢見ていたということもあって、今回の活動を通して、実際に、海外での医療の現状を自分の目で見て肌で感じる事ができたことは、私にとって、今後の自分の看護師人生にもつながるとても貴重な経験になったと感じています。

主な活動として、小学校を視察し、設置されているトイレの使用状況や衛生環境などを確認すること、学校の先生たちの意見を聞いて教育環境の整備に努めること、机や椅子の寄付などがありましたが、実際に、支援の対象となっている小学校まで足を運び自ら現状の把握に努めるだけでなく、現地の人々の声に熱心に耳を傾けていたのがとても印象に残っています。また、活動のなかで、現地に住んでいる方々や子どもたちと触れ合う機会もあり、たくさんおもてなしをしていただいたり、みんなで一緒になって踊ったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。しかし、そんななかで、子どもたちの純粋でキラキラした笑顔を見てみると、ふと、生まれた国や貧富の差に関わらず、やはり、医療や教育はみな平等に受けられるべきであると感じたりもしました。

ツアーの期間中には、このような活動以外にも、普段はできないような様々な経験をさせていただき、また、徹先生や理子先生から、「じゃっど」が設立するに至った経緯やこれまでの活動などについてもたくさんお話を聞かせていただきました。そして、子どもたちにいつも笑顔で温かく接している「じゃっど」のみなさんが、これまで 20 年以上も活動を続けてきていらっしゃるのも、何より、「子ども達が健康に育ち、教育を受けられるように」という強い思いが根底にあるからなのだと感じました。そういった「じゃっど」の皆さんの姿をみて、また、自分自身、実際に活動をするなかで、その国に住む人々が本当に必要としているものは何であるのか、そして、そのために私たちは何をすべきなのかということを考え、現地の人々が主体となって取り組めるような支援を行っていくことが大切なのだと感じました。何か一つの活動を成し遂げたり、それを続けていくということはとても難しいことではありますが、ほんの些細なことでも自分にできることはたくさんあると思うので、子どもたちが明るい希望をもちながら、健康に育ち、そして教育を受けることができるよう、今後も何らかの形で自分にできることを自分にできる範囲で続けていけたらと思います。

今回、このような貴重な経験をさせていただいた「じゃっど」の皆さんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



ラオスに行って

川内高等学校普通科2年 脇美波

私は学校の勉強よりも海外が好きだ。中学一年のクリスマス。ホームステイでアメリカに行って以来また海外に行く機会があったら是非異文化に触れてみたいと思っていた。

私の通う川内高校は薩摩川内市にあり、「じゃっど」という NPO 法人が、薩摩川内市の学校を対象にスタディツアーへの学生派遣者を募っていると聞いた。何が「じゃっど」なのかもよくわからないままラオスについて全く知らなかったが是非行ってみたいと思い、応募して校内で選抜され晴れて参加することとなった。

申し込みと説明会の時父と一緒に NPO 法人「じゃっど」に出かけた。父と余り年齢の変わらない方々が数十年間も情熱的にラオスの小学生の支援を行っていらっしやることにまず驚いた。そんなに続く理由は何なのだろう。ラオスにはいったい何があるのだろうか？どんなところなのだろう？疑問と興味が次々とわいてきた。

スーツケース半分開けて支援物資を運ぶこと。夏なので蚊の対策をしていくこと。飲み物食べ物に注意することなど今の私には想像できない。現地の様子に期待は膨らむばかりだった。

福岡から飛行機を乗り継いで蒸し暑いラオスに着いた。日本とはかけ離れた荒れた道路、車とバイクのびっくりするくらいの多さ。アメリカとも全く違う異国を感じた。

驚いたのはラオスの人々の素敵で明るい笑顔と優しさだった。そう感じたのは挨拶だ。どこに行っても手を胸の前できれいに合わせて、ひざを少し曲げ、相手の目をしっかりと見て「サバイディー」と言ってくれる。その挨拶がとてもうれしかった。

主な目的は小学校の訪問だった。手作りの花の首飾りに私は感動した。とっても嬉しかった。私は空手の演武で日本の一部を紹介した。どう映ったかはわからないが、何となく受けてくれたと思う。空手を川内高校で学んでいてよかったと思った。

人々の生活は日本と比べると決して豊かとは思えないのだが、人々の表情はそんなことは全く気にすることではなく、みんな生き生きと幸せそうに見える。日本は恵まれていて豊かだが、彼らほど幸せなのだろうか？その辺が良く分からなくなった。

自分が、日本がいかに恵まれた環境でありそれを当たり前のように何の感謝もなく過ごしていたことに気付かされ、恥ずかしく思えた。これもこの機会を作ってくれた「じゃっど」のツアーに参加させてもらったお陰だ。これから自分に何ができるか？大それたことは何も言えないが、何不自由なく生活できることに感謝し、今の自分にできることを確実にやっていこうと思う。ありがとうございました。



スタディツアーに参加して

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻 3 年 寺田香奈里

ツアーに参加する前、ラオスという国の名前は聞いたことはあるけど、場所もどんな国なのかも全く知らない状態でした。イメージは発展途上の貧しい国。しかしこのイメージはたった 1 週間のスタディツアーで、“貧しい”という概念から覆されていくことになります。

今回の目的である学校保健の視察。車が多く、キラキラした街並みの首都とはまったく違い、ここが私が最初にイメージしていた“貧しい”ラオスの村だと感じました。学校に着くと、子供たちが校門に並んでおり想像以上の歓迎を受けました。2015 年で一番嬉しかった瞬間でした。子供たちの純粋な笑顔、手を胸の前で合掌してちょこんと可愛く膝を曲げて挨拶する姿、カメラを向けると恥ずかしそうにする姿、鮮明に覚えています。目が輝いていて、日本にはない子どもらしさを感じました。学校の先生方をはじめ、村人たちからも歓迎を受けました。初対面である私たち学生に対して、笑顔で近づいてきて、音楽が流れると一緒に踊る姿。そこには、私が最初にイメージしていた“貧しい”という言葉はまったくあてはまりませんでした。確かに経済面では貧しいのかもしれません。しかし日本に勝る心の“豊かさ”がありました。たった 1 週間のツアーで“貧しい”という言葉の概念まで覆されるとは思っていませんでした。私は日本という恵まれた地で生まれ育ち、それが当たり前になっていることに気づかされました。当たり前から離れ、違う視点から様々なことを見ることで新たな発見があるのだと分かりました。また、じゃっどの方々と現地の人々が関わっている姿をみて、信頼関係が成り立っていると感じました。じゃっどと現地の人々がラオスの衛生面の向上という共通の目標をもっているからこそ、良い関係が築けているのだと感じました。このように発展途上国の向上を目指して活動している団体があること、そこに自分が関わらせていただいたことを誇りに思います。次は今よりももっと成長した姿でラオスに行きたいです。

“いつかすべての子供たちが笑って過ごせる日がきますように

～May all children spend the days with smile “



スタディツアーに参加して

川内商工高等学校商業科3年 野口春加

私は、今回のスタディツアーに参加するまでラオスという国を知りませんでしたが、今回スタディツアーに参加して現地に行き、ラオスの人たちと触れ合って、ラオスの文化を見てみて、とても魅力的な国だと思います。特に、私は今回のツアーで同行して下さったじゃっどの皆さんから聞いた、ラオスの歴史やラオスに伝わる神話・伝説がすごく面白いなと思いました。今回のツアーで、自分が本当に興味を持っているのは何なのか気付けたと思います。

また、私は今回のツアーが初めての海外でとても不安でしたが、一緒に行った方々が優しく、海外で気を付けるべき事やラオスのことについて教えて下さったので、とても楽しく過ごせた一週間でした。今回のツアーでは色々新しいことをしましたが、新しいことに挑戦することは、とても楽しくて自分自身のためになったと思います。本当にこのスタディツアーに参加して良かったと思います。

また、今回行けなかったラオスの有名なところにも自分で行ってみたいなと思いました。



2015 ジャッドスタディツアー 平成 27 年 12 月 24 日～31 日



県職員短期派遣研修に参加して

鹿児島県北薩地域振興局介護指導係 川井隆輔

鹿児島県職員の研修で今回NPO法人じゃつどに合計5回の短期派遣させていただきました。
以下その報告です。

研修初日：H27.7/25：10:00～15:00：じゃつど事務局

初日ということもあり、特に主だった研修はできなかったですが、じゃつどのパンフレットの
変更点のシール貼りをしました。また当日はスタディツアー事前説明会があり、参加者の初顔
合わせでした。スタディツアーに参加されるみなさまの期待と不安に満ちた表情が伝わってき
ました。

研修2日目：H27.10/10：11:00～16:00：薩摩川内市国際交流センター

認定NPO法人じゃつどが特別功労団体として表彰されるにあたり、薩摩川内市国際交流フェ
スタのブース出展に参加。さまざまな文化の展示がある中で、じゃつどスタディツアーに今年
度の参加者やOBとともに展示をし、来場者にじゃつどの活動について知っていただく機会を
つくりました。

研修3日目：H27.10/25：8:30～17:15：鹿児島純心女子大学川内キャンパス

純心大学 10/24～25 で開催された純大祭でパネルブースの設営、展示。来場者にじゃつどの活
動についてPRしました。その中で、薩摩川内市職員の方から、薩摩川内ポートフェアという
イベントへブースを出展することを打診されました。

研修4日目：H27.11/14：9:30～14:15：薩摩川内市立鳥丸小学校

鳥丸小学校、元気塾でじゃつど活動広報への同行。子供たちにじゃつどについての活動の講演
会の開催。子供たちがキラキラした目で、前のめりで古田理事の話を聞いている姿に感動しま
した。

研修5日目（最終日）：H27.11/28：10:00～14:45：川内港

薩摩川内ポートフェアというイベントでのブース出展。今回は一番募金も集まったような気が
しました。

総論

普段県職員としては、介護業務に携わっております。現職種ではなかなか体験することのでき
ない、そして、いつか県職員として携わりたい国際交流の分野に携わらせていただいたことに
大変感謝いたしております。中でも印象に残ったのは、4日目の研修でした。

古田理事が子供たちに質問した「ボランティアってどんなことだと思う？お母さんの皿洗いの
お手伝いは、ボランティアではなく、親へ日頃の感謝をする当たり前の行為。ボランティアと
は、自分発信で自ら進んで人、社会のために行うこと。」という言葉に凄く感動しました。

これからの県職員人生においても、この「ボランティア精神」を忘れずにいきたいです。

薩摩川内元氣塾で講話

日：6月25日 場所：薩摩川内市立城上小学校

対象：1年生から6年生55名と教師、保護者、地域の方

講師 高橋真弓

梅雨の合間の雨が少しやんだ午後、城上小学校でじゃっどの活動を通してラオスの紹介をする機会をいただきました。「お話の後にいくつか質問をするから写真よく見ていてね」と事前に説明し、終わった後ティップカオ（かご）を見せて「これは何でしょう」と質問するとみんな首をかしげたりしていましたが、1人の男子が手を上げて、「ご飯がはいっていた！」と答えてくれました。正解！さらりと台所の写真をみせたただけだったのに！集中力にびっくりでした。

生徒の感想文から抜粋

○ラオスの子どもは明るくて笑顔ということがわかった。じゃっどは、もっと笑顔になってもらうために文房具や机をおすそ分けしているのがすごいと思った。この活動がいつまでも続くといいな。

もしなくなってしまうたら、私たちがまた作り直していろんな国のお手伝いがしたいと思った。（4年女子）

○話を聞いて、できることを少しずつ考えていきたいと思った。（6年男子）

○ラオスには給食がないし手で食べると聞き驚きました。（3年女子）

○じゃっどの活動のように援助を続け日本もラオスも他の国も全ての国が笑顔であふれたらいいと思います（6年女子）



日：11月14日 場所：薩摩川内市立鳥丸小学校

対象：1年生から6年生21名と教師、保護者、地域の方

講師 古田宣稔

今回の鳥丸小は祁答院町黒木の上手小の教頭が鳥丸小の校長になられて再度の講演依頼でした。高校での講演、小中学校での講演、学校がかわれば、生徒が替われば、講演後の思いも変わります。久しぶりの薩摩川内元氣塾、今回の鳥丸小は講演して本当に愉しかった。講演は生徒21名保護者や先生合わせて総勢50名の小さな学校でしたが、鳥丸小学校は自然に囲まれ子供達がのびのびと育ち、地域との触れ合いを大切に花に包まれた美しい小学校でした。子供達の真剣なまなざしにラオスの子供達を思い出しました。スタディーツアーで学校訪問をした際、まず「サバイディ」こんにちわの挨拶と花束で迎えられます。鳥丸小学校も子供達の元気な挨拶と色鮮やかな花が咲き誇る校庭や校舎が迎えてくれました。講演はパワーポイントで写真を見せながら、子供達や保護者に質問し、答えていく形式で進めましたが、次から次へと挙手があり、話しながら愉しくなりました。内容はラオスの子供達の生活と自分達を較べてもらう事に基本を置きました。毎日水汲みやお手伝いをするラオスの子供、鳥丸小学校の子供達には教室や校庭の掃除、花の手入れ、お父さんお母さんのお手伝いする大切さを話し、本当の恵まれた環境とは何かを考えてもらいました。

最後に、2017年3月で閉校が決まった鳥丸小学校の子供達に「世界には70億を超える人々が生きています、その中の日本に1億2000万の人が住み、皆が鳥丸小で出会ったことは奇跡です。この出会いを大切に友情を育んでください」と講演を締めくくりました。



【事務局たより】

新規会員・ご寄付（2015 年 6 月～2016 年 1 月）

感謝の気持ちと共に、ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきました。（以下敬称略）

■ 新規会員

嶺崎俊郎、徳田眞子、寺田香奈里（鹿児島市）、脇美波野口春加、坂元俊二郎（薩摩川内市）

■ 平成 27 年度会費

鎌田到（北海道）、宇津木和夫、宇津木和子、小林義郎、高木史江（東京都）、斉藤好美（埼玉県）、望月明子（神奈川県）、鈴木琴子（茨城県）、山内京子（広島県）、橋本晴美、下川恵子（福岡県）、桑原美智子、サントリービバレッジサービス(株)（鹿児島市）、酒井マリ（鹿屋市）、野元善文、小屋一美、河野弥生（いちき串木野市）、小幡順子、中村律子（出水市）、松永武志（阿久根市）、向井佑次郎、(有)十本松ドライブイン、神田安代、中村吉治、北住信子、中島清登、今村久美子、宮脇美智子、土川京子、岩崎岩男、小倉邦子、渡辺裕子、三本稔世、瀬戸山弘子、久保陽子、若松大介、若松しづ子（薩摩川内市）

■ 平成 28 年度会費

岩田誠（東京都）、高野眞綾（埼玉県）、望月明子（神奈川県）、案浦由美（福岡市）、堀田哲一郎、（鹿児島市）、河野弥生（いちき串木野市）、谷口征夫、川畑善照、假屋泰子、瀬戸山弘子、東條勝代、久保陽子、若松大介、若松しづ子（薩摩川内市）

■ 平成 29 年度会費

澤田達男（東京都）、時村兼輔、時村英輔（鹿児島市）、河野弥生（いちき串木野市）、川畑善照、南修、南恭子(株)ハートフル、久保陽子（薩摩川内市）

■ 平成 30 年度会費

河野弥生（いちき串木野市）、久保陽子（薩摩川内市）

■ 平成 31 年度会費

河野弥生（いちき串木野市）、久保陽子（薩摩川内市）

■ 寄付金

橋本しをり（東京都）、高野眞綾（埼玉県）、望月明子（神奈川県）、山内京子（広島県）、案浦由美（福岡市）、堀田哲一郎、時村兼輔、（鹿児島市）、野元善文、高橋真弓（いちき串木野市）、谷口征夫、向井佑次郎、川畑善照、假屋泰子、江口紀子、澤口ミチ子、上赤順子（薩摩川内市）

■ 机いす募金

1 口：岩田誠（東京都）、案浦由美（福岡市）、サントリービバレッジサービス(株)（鹿児島市）、野元善文（いちき串木野市）、坂元俊二郎、今屋佳代子、川畑善照（薩摩川内市）

2 口：山内京子（広島県）

3 口：小林義郎、鎌田憲司（東京都）、堀田哲一郎（鹿児島市）、高橋真弓（いちき串木野市）、小幡順子（出水市）、(有)十本松ドライブイン、瀬戸山弘子、古田宣稔、澤口ミチ子、上赤順子（薩摩川内市）

4 口：望月明子（神奈川県）

■ 大口寄付

姫野治子（福岡県）、小幡順子（出水市）、帖佐徹（薩摩川内市）

■ 印刷協力 神崎侯至（株式会社アクティブ）

■ 新聞発送協力 立島尚子

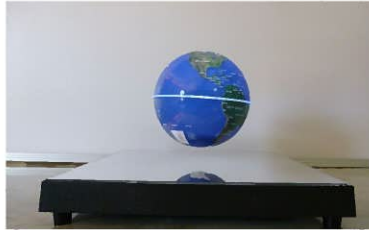
【国内活動】

- 6 月 11 日 川内高等学校 学校評価委員会（古田）
- 6 月 25 日 薩摩川内元気塾講話 城上小学校（高橋）
- 6 月 30 日 認定 NPO 申請相談 県交流センター（高橋、今屋）
- 7 月 25 日 スタディツアー事前説明会（理事長以下全員）
鹿児島県職員 NPO 研修者受け入れ（計 5 回）
- 9 月 14 日 アジアキッズ大賞候補面談 鹿屋小学校訪問（古田、今屋）
- 10 月 10 日 国際交流フェスタ 薩摩川内市国際交流センター（帖佐徹、古田、小幡、今屋、他ボランティア）
- 10 月 24 日 鹿児島純心女子大学祭（古田、今屋、他ボランティア）
～25 日
- 11 月 14 日 薩摩川内元気塾講話 鳥丸小学校（古田）
- 11 月 16 日 川内高等学校 学校評価委員会（古田）
- 11 月 28 日 薩摩川内ポートフェア（古田、高橋、今屋）
- 12 月 9 日 県共生・協働センター面談 じゃっと事務局にて（帖佐理子、高橋、今屋）
- 12 月 24 日 2015 スタディツアー（帖佐徹、帖佐理子、小幡、他学生派遣者ら 5 名）
～31 日
- 1 月 11 日 じゃっと理事会（理事長以下全員）
- 1 月 12 日 県共生・協働センター機関紙取材対応 じゃっと事務局にて（帖佐理子、高橋、今屋）

じゃっど INFORMATION

川内国際交流協会から特別功労団体の部で感謝状を授与！

当日は国際交流フェスタも開催され多くの人で賑わい、じゃっどはパネル展示しました。



副賞は摩訶不思議 浮かぶ地球



★純心大学祭、薩摩川内市主催ポートフェアにパネル展示で参加しました。

お手伝いいただいた皆様ありがとうございました。



会員様の会費納入状況（会費有効期限）は、宛名シール内に記載してありますので、ご確認ください。（今年度平成27年度会費の有効期間は、平成27年4月1日～平成28年3月31日です）27年度納入済みの方のあて名シールには、会費有効期限 H28/3/31 とあります。

※ゆうちょ銀行の自動引落としにて会費お支払の方は、支払日＝8月31日となっております。※振込用紙はすでに次年度会費を納入済みの方にも同封してあります。寄付金等のご協力にお使いいただければ幸いです。

★じゃっどは認定 NPO 法人です。ご寄附頂いた金額は税金控除の対象になります。

じゃっどの活動は皆様の会費に支えられています。

机いす募金・寄付金、随時受け付けております。

よろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行： 02050-2-4746 口座名 JAIDO

★第24回 じゃっど定期総会のご案内

日時：平成28年5月14（土）

午後15：00～16：00（予定）

場所：市民文化センター会議室

正会員の皆様、出席よろしくお願いします。



★年末に募集したタオル 300 枚以上にもなりました。スタディツアーでラオスの小学校に届けました。手洗いをし、きれいなタオルで拭く。保健衛生の勉強に役立てられます。ご協力ありがとうございました！

★★ 編集後記 ★★

★ツアー参加の直前での入院で、ツアーをキャンセルして迷惑おかけいたしました。すみません・・・

健康のありがたみを、とても実感している私ですが、減酒は難しいですね。けど頑張らねば。(KAMI)

★ツアーの参加者が今回、夕方のビエンチャン市内の渋滞がひどくて毎回立ち寄るタラートサオに行く時間もなかったとの事！ベトナムのバイクの大群が頭をよぎったけど、近い将来にはバンコクのように、頭上を電車が走るようになったりして！？・・・今年は実体験しなくちゃ。(はいぶりっじ)

★お正月、焼餅にチズと海苔を巻いて砂糖醤油をつけて食べたら大ヒット!!美味しすぎて、あっという間に体重増…。ひゃあ～今は間近に迫った健康診断に向けて悪あがきのダイエット中…後悔先に立たずト林(I.K)

